COT
臨床作業療法
Clin Occup Ther
Vol.15 No.2 2018

特集

これからどうなる？ 自立支援型の地域ケア会議

編集担当　佐藤孝臣

地域ケア会議における作業療法士の役割　佐藤 孝臣 ●111
大分県杵築市の取り組みと自治体（市町村）が作業療法士に望むこと　江藤 修 ●116
大阪府における地域ケア会議の取り組みと作業療法士に期待すること　菱谷 文彦 ●120
介護予防のための地域ケア個別会議　石井 義恭 ●125
山形県内の地域ケア会議における作業療法士の取り組み　松木 信 ●129
地域ケア会議における作業療法士の役割 ―大阪府での取り組みを通して　藤原 太郎 ●134
兵庫県での作業療法士の取り組み　長倉 寿子 ●139
大分県（作業療法協会）の取り組み　高森 聖人 ●144

烈闘作業療法
作業療法士は地域住民の生活コーディネーター（田渕 真也さん） ●104

連載

【新連載】責任者はつらいよ，でも楽しいよ
プレイングマネジャーとして考えること　朝倉 起己 ●149

【新連載】ADL 潜考と日常実践
トイレ動作の評価と介入　三瀬 和彦，他 ●153

アクティビティの実践講座
八重桜の紙工作　泰山 紀子 ●173

【最終回】病棟リハの在宅での活かし方
入院中から在宅生活をイメージするために　阿部 あゆみ ●176

コラム

らんどまーく
介護老人保健施設のリハビリって？　多良 淳二 ●102

女性 OT ひとりで悩まないで
子どもの介護とブランクへの不安を抱えながら　宇田 薫，他 ●162

なんでもできる 100 均グッズ
200 円肩サポーター　草野 悟郎，他 ●164

しっちょきよえ！ 地域ケア会議の常識
生活課題をまとめちみるけん!　児玉 隆典，他 ●166

新人 OT あゆみちゃんの回復期リハ病棟記
目標の聞き取り　吉川 歩 ●168

OT として私が大切にしていること
作業によって紡がれたナラティブに寄り添う　織田 靖史 ●170

レポート
組織マネジメントは“作業療法そのもの”　細川 寛将 ●180

アラカルト

作業療法周辺のニュース ●182
はじまりのことば…川口 淳一 ●巻頭頁
今月の表紙…小林 大作 ●巻頭頁後
カメラマン川上哲也の見た世界 ●目次前
既刊案内 ●160
本の街道 そぞろあるき ●161
書評 ●184，185
インフォメーション ●186
次号予告 ●188

◉烈闘作業療法
Passion of Occupational Therapy

作業療法士は地域住民の生活コーディネーター

のんびり穏やかな田舎町，和歌山県の貴志川町。デイサービス「えぇわっしょ貴志川」は，民家のようなたたずまいで，そのまちに溶け込んでいた。「えぇわっしょ」とは，和歌山の方言で「いいね」の意味。ここは，人それぞれの「いいね」を見つけて元気になれる場所なのだ。

今回は，その「えぇわっしょ貴志川」を運営する田渕真也さんにお話を伺った。紆余曲折を経て OT，そして起業の道へ進んだ田渕さんだが，気取らないユーモラスな語り口は苦労を感じさせない。今後は，デイサービスだけでなく地域にも飛び出していきたいとのこと，とても楽しみである。（編集室）

田渕 真也
㈱サポートトライアングル えぇわっしょ貴志川
OT 12 年目，和歌山県出身

インタビューの様子がムービーでご覧になれます

特集

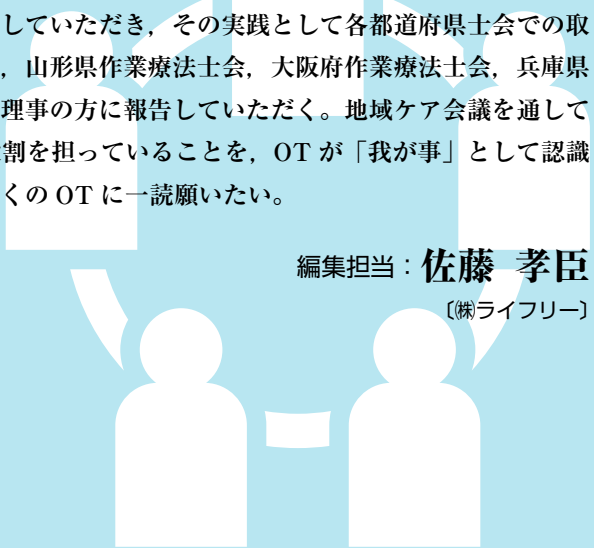
これからどうなる？

自立支援型の地域ケア会議

自立支援型地域ケア会議に全国の市町村が取り組み始めている（本特集における自立支援型地域ケア会議とは，QOL の向上を目指す介護予防のための地域ケア個別会議のことを指す）。これは国の介護予防活動普及展開事業の後押しもあるが，各市町村が介護保険の基本理念である自立支援の追求に保険者として明確な意思をもって動き出したと感じる。その中には，リハ専門職の活用として OT が明記されている。これは，介護保険の理念である自立支援は生活課題の解決とも述べられているが，ここを OT の専門性の発揮の場として国も期待している表れである。しかし，実際には全国すべての市町村での自立支援型地域ケア会議に OT が参加するまでには至っていない。やはり，それには実施主体である市町村，職能団体の派遣調整や研修会を通しての支援を行う都道府県，そして厚生労働省と各都道府県士会が一体となって取り組まなければシステムとしての構築は困難である。

本特集は，そのような施策が進む中で，OT への期待を，先進的に取り組んでいる自治体として市町村では杵築市，都道府県では大阪府，さらには国の視点から厚生労働省の担当者の方に執筆していただき，その実践として各都道府県士会での取り組みを大分県作業療法協会，山形県作業療法士会，大阪府作業療法士会，兵庫県作業療法士会，の会長・担当理事の方に報告していただく。地域ケア会議を通してわれわれが地域の礎となる役割を担っていることを，OT が「我が事」として認識する一助として企画した。多くの OT に一読願いたい。

編集担当：佐藤　孝臣
〔㈱ライフリー〕



特集

これからどうなる？ 自立支援型の地域ケア会議

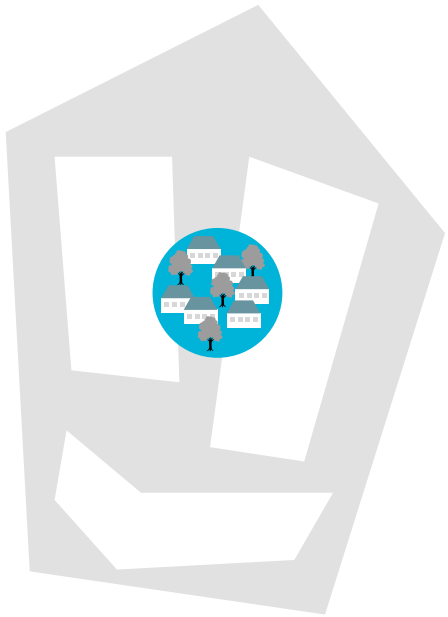
地域ケア会議における作業療法士の役割

Takaomi SATO
佐藤 孝臣
●（株）ライフリー，作業療法士

内容を理解するためのキーワード ●地域ケア会議 ●自立支援 ●作業療法士

作業療法のポイント

- ●地域ケア会議では，個別課題の議論に終始せず，地域課題についても議論し，行政へ政策提言をするよう努める。
- ●地域ケア会議では，専門用語を平易に言い換えるなど，他職種や医療専門職でない方にもわかりやすい助言を心がける。



0917-0359/18/￥400/論文/JCOPY

はじめに

わが国における少子高齢化は 2025 年を境に急速に進んでいく。社会保障費の増大には，国のシステムを変更しなければ対応できない。そのような現状で，地域包括ケアシステム構築が急務となっている。介護保険の現状は，新規の要介護認定者は要支援 1・2，要介護 1 の軽度者が半数以上を占めている。そして，そのうち約 5 割は生活不活発からの筋力低下などが原因であり，改善の見込みがあるケースが多い。このような軽度者への支援は今後，地域支援事業として市町村での運営となっていき，総合事業として多様なサービスを構築して自立支援に向けて提供していくことになる。しかしサービスの対象者を基本チェックリストのみでのアセスメントで振り分けているケースが多く，適切なサービスに繋げることができているか不確定な部分が危惧されている。また，医師の意見書などの情報がない場合もあり，医療と介護の連携は重要である（図 1[1)]）。そこで，多職種が参加して自立を阻害する要因を追求し，医療との連携を模索し，地域課題の把握と解決機能の協

特集

これからどうなる？ 自立支援型の地域ケア会議

大分県杵築市の取り組みと自治体（市町村）が作業療法士に望むこと

Osamu ETO
江藤 修
●大分県杵築市 福祉推進課

内容を理解するためのキーワード ●身体 ●精神 ●経済

作業療法のポイント

●高齢者の生活機能の維持向上を支援する専門職である OT には，地域包括ケアにおける中心的な役割が期待されている。
●自立支援を進めるうえでは身体機能のみに着目するのではなく，精神状態や経済的負担への視点が重要である。
●介護保険を中心とした地域包括ケアシステムを全世代に対応できるよう進化させる必要がある。

はじめに

杵築市では，2012 年 2 月から「自立支援型の地域ケア会議」に取り組んでいる。現在，全国の多くの自治体で同様の取り組みがなされているが，その対象事案はほとんどが要支援 1・2 で，介護予防・日常生活支援総合事業の対象者ではないかと思われる。しかし，杵築市の場合は当初から，前述の対象者に加えて要支援 1 から要介護 5 までのすべての要介護認定者を対象とした「住宅改修・福祉用具」のサービス提供プランも地域ケア会議で検証している。その中で，印象に残っている事例を紹介する。

事　例

地域ケア会議におけるプラン検証時の対象者の概要は次のとおりである。

●年齢 77 歳，女性，要介護 2。
●要介護となった主要因：脳内出血（右視床出血），左半身麻痺。

0917-0359/18/￥400/論文/JCOPY

特集

これからどうなる？ 自立支援型の地域ケア会議

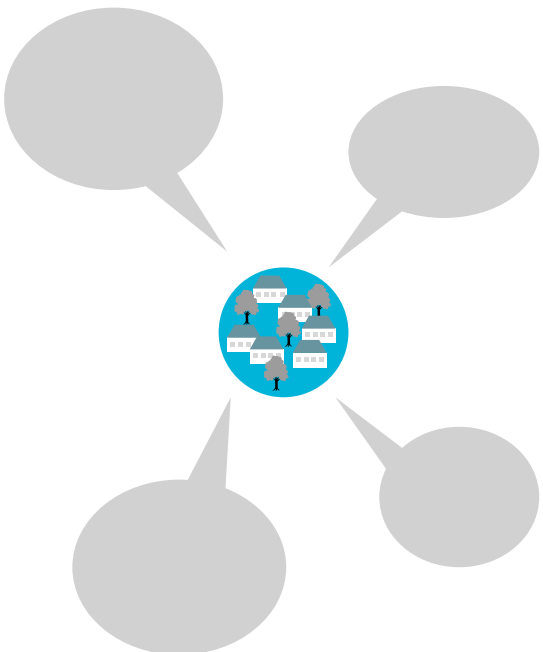
大阪府における地域ケア会議の取り組みと作業療法士に期待すること

Fumihiko HISHITANI
菱谷 文彦
●大阪府福祉部 高齢介護室 介護支援課

内容を理解するためのキーワード ●フレイルの未然防止と多職種連携 ●介護予防ケアマネジメント ●生活課題の解決

作業療法のポイント

- ●地域ケア会議は，地域の関係者のアセスメント力向上や多職種連携を進めさせることにより，介護予防ケアマネジメントを推進する具体的な仕掛けとして有効である。
- ●OTは，生活状況についての分析や生活改善の視点から具体的なアドバイスができるという「強み」を活かしていく必要がある。



大阪府の現状と課題

全国3位，880万人超の人口を抱える大阪府は，団塊の世代の人口構成割合が高いため，団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて75歳以上の高齢者数が急増しており，単身世帯割合も高いという「都市型高齢化」の進展が見込まれている。

こうした中，2016年3月に厚生労働省が公表した資料によると，大阪府の年齢調整後の要介護認定率22.4%（全国平均17.9%），第1号被保険者1人あたりの介護費31.9万円（全国平均27.4万円）は，いずれも全国で一番高いことが分かっている（図1[1]）。大阪府の介護需要のピークは2035年から2040年頃と見込まれており，今後，財政と人材の両面からどのように対応していくかが大きな課題となっている。

大阪府の分析では，府の介護費が高いのは，受給者1人あたりの要介護度別の介護サービス利用額に原因があるのではなく，要介護認定率の高さが直接的な原因となっていること，また，全国平均より要介護認定率が高いのは，要支援1，2の多

0917-0359/18/￥400/論文/JCOPY

特集

これからどうなる？ 自立支援型の地域ケア会議

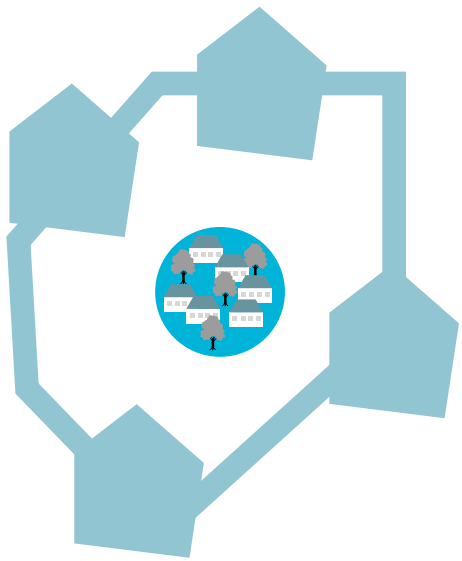
介護予防のための地域ケア個別会議

Yoshiyasu ISHII
石井 義恭
●厚生労働省老健局総務課

内容を理解するためのキーワード ●自立支援 ●地域づくり ●連携

作業療法のポイント

- ●今回の介護保険制度改正の中核は「保険者機能の発揮による自立支援と重度化防止」であり，専門職として，基礎自治体とのパートナーシップを強め，介護保険の理念を推進することが求められる。
- ●地域ケア会議の開催自体が目的ではなく，その先には「地域づくり」が存在し，地域全体をターゲットにした「予防ができる環境の設定」が必要である。
- ●多職種連携や地域連携の際には，相互理解や方向性の共有が不可欠であり，地域ケア会議や協議体は連携のプラットフォームとなりうる。



0917-0359/18/￥400/論文/JCOPY

地域ケア会議の概要と目的

厚生労働省老健局では，2016年度より「介護予防活動普及展開事業」を開始しており，その中核をなす取り組みが「介護予防のための地域ケア個別会議」である。事業名が示すとおり，介護予防のための地域ケア個別会議の目指す先には「介護予防活動の普及展開」がある（図1[1]）。

現在の日本は，過去に前例のない人口減少社会を迎えている。人口構成の変化だけではなく，家族形態や社会をとりまく環境は大きく変化し，そうした変化の中からダブルケアといったような新しい課題も生まれている。社会の変化に対応するために，当然のことながら政策も変化していく。今，求められていることの根幹には「予防」があり，できるかぎり健康に過ごすことを可能にする地域の環境づくりが必要である（図2[2]）。

地域ケア会議は2015年に法律上の規定がされ，どこの市町村でも開催に努めている。開催の方法については細かく規定しておらず，さまざまなスタイルで開催されている。一般的に困難事例と呼ばれるような支援が難しい事例を検討するもの，

特集

これからどうなる？ 自立支援型の地域ケア会議

山形県内の地域ケア会議における作業療法士の取り組み

Makoto MATSUKI
松木 信
●介護療養型老人保健施設 木の実 通所リハビリテーション，作業療法士

内容を理解するためのキーワード ●地域ケア会議 ●作業療法士 ●生活行為

作業療法のポイント

- ●地域ケア会議では，OT でも身体機能面の助言を求められる傾向があるが，生活行為の自立支援，生活課題に対する具体的支援内容の助言を心がける。
- ●地域ケア会議での助言は，作業療法の良さを他の専門職や行政機関，地域住民に知ってもらう機会となる。

はじめに

2015 年 4 月 1 日改定の介護保険制度では，今まで各市町村の任意事業であった「地域ケア会議」や「介護予防・日常生活支援総合事業」（以下，総合事業）の，2017 年度中の実施が義務づけられた。介護予防やリハも，これまでは身体機能の維持改善に主軸を置いたサービス提供であったが，今後は身体機能面だけではなく，「活動」や「社会参加」にもアプローチができるよう見直され，特に「活動」や「社会参加」には OT のサービス提供が欠かせないため，その役割は非常に大きくなると予想される。今回，一般社団法人山形県作業療法士会（以下，県士会）は山形県の要請に伴い，「地域ケア会議」への会員による助言者派遣および資質向上研修を実施し，特に地域ケア会議では，生活課題に結び付けた助言を行うよう心がけた。この事業を通し，他の専門職や行政，そして地域住民に，作業療法の理解が拡散され，そのことが将来の作業療法の展望にどう結びつくのか考えてみたい。

0917-0359/18/￥400/論文/JCOPY

特集

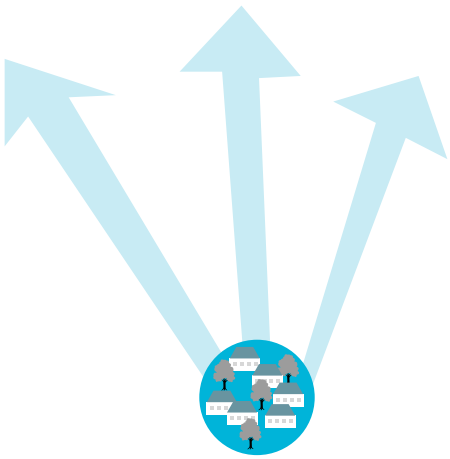
これからどうなる？ 自立支援型の地域ケア会議

地域ケア会議における作業療法士の役割―大阪府での取り組みを通して

Taro FUJIWARA
藤原 太郎
●㈱和ごころ 和泉リハビリ訪問看護ステーション，作業療法士
●一般社団法人 大阪府作業療法士会

内容を理解するためのキーワード ●地域ケア会議 ●OT の強み ●まちづくり

作業療法のポイント
●地域ケア会議での助言は医療・介護・福祉分野と多岐にわたる。5W1H（when，where，who，what，why，how）を意識した助言やまとめが重要となる。
●「社会参加」を意識した助言ができる OT は，まちづくりに繋がる視点を明確にもてる貴重な存在である。
●経験年数にかかわらず，多くのアイデアの引き出しをもった OT に気負わず活動していただきたい。



0917-0359/18/￥400/論文/JCOPY

はじめに

大阪府では，2016 年度より各市町村で自立支援型地域ケア会議の開催が本格化してきており，OT がアドバイザーや助言者として参加する機会が増えてきている。

筆者も，地域ケア会議にアドバイザーなどの立場で参加しているが，その中で多くの課題を感じ，会議のあり方や内容を振り返ることが多い。また，一般社団法人大阪府作業療法士会（以下，府士会）にて地域包括ケア委員会の担当理事として活動する中で，府士会と市町村との連携の重要性や OT に期待される役割をひしひしと感じながら，人材育成にも努めている。自身の体験から，地域ケア会議における OT の役割について報告する。

大阪府作業療法士会としての活動

地域包括ケア委員会は，府下の各医療圏域 9 ブロックから 2 名参加の計 18 名で構成されており，

特集

これからどうなる？ 自立支援型の地域ケア会議

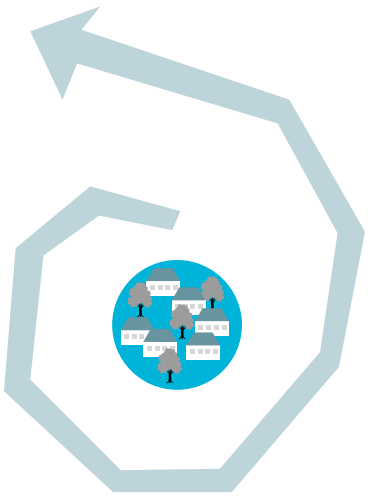
兵庫県での作業療法士の取り組み

Hisako NAGAKURA
長倉 寿子
●順心リハビリテーション病院 地域リハビリテーションセンター，作業療法士

内容を理解するためのキーワード ●地域ケア会議 ●自立支援 ●人材育成

作業療法のポイント

- ●行政の取り組みの経過や背景，「介護予防」「自立支援」の意味を十分理解し参画することが重要である。
- ●先駆的な取り組みについて学び，効果的かつ効率的な支援ができるよう努力することが求められている。
- ●地域ケア会議の参加では個々のケースの振り返りだけにとどまらず，地域ケア会議の５つの機能を理解し，個別ケースの検討の積み重ねから地域の検討を積み重ね，地域の課題を抽出する。



はじめに

兵庫県において，一般社団法人兵庫県作業療法士会（以下，県士会）は，地域包括ケア時代におけるOTの役割とその推進強化について，地域ケア推進委員会を設置し人材育成と啓発に取り組んでいる。また，2015年3月に一般社団法人兵庫県理学療法士会，一般社団法人兵庫県言語聴覚士会との協定により兵庫県リハ3士会合同地域支援推進協議会を立ち上げ，全県あるいは各圏域のリハビリテーション支援センターと協力しながら，高齢化の進展によるさまざまな課題に取り組むことや，地域づくりにリハ専門職が活動できるよう県や市町と積極的に情報交換することにより，支援体制の仕組みづくりを強化しているところである（図1）。今回，「地域包括ケアシステムの実現に向けた手法」とされている地域ケア会議について，先駆的な県・市町に学びながら筆者が参画した洲本市，明石市，加古川市の取り組みや，兵庫県のリハ職団体の活動について，地域で働く一OTとしての私見を交えて紹介する。

0917-0359/18/￥400/論文/JCOPY

特集

これからどうなる？ 自立支援型の地域ケア会議

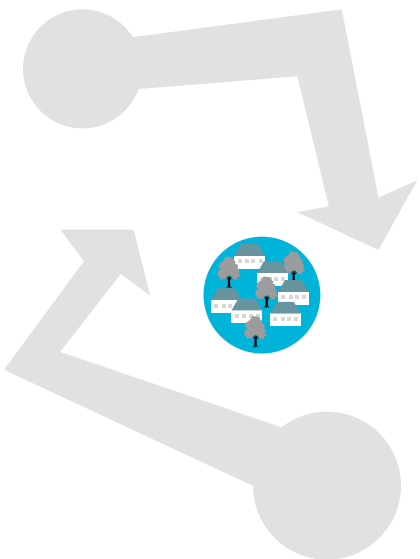
大分県（作業療法協会）の取り組み

Masato TAKAMORI
高森 聖人
●㈱空色 こどもデイサービス夢色，作業療法士
●公益社団法人 大分県作業療法協会

内容を理解するためのキーワード ●人材育成 ●全世代対応型 ●自立

作業療法のポイント

- ●大分県では，県が主導し自立支援型の地域ケア会議を全市町村で実施，そのほとんどに OT が専門職助言者として参画しており，県の委託研修などにより人材育成にも積極的に取り組んでいる。
- ●杵築市で始まった生活困窮者支援事例などの地域ケア会議では，複合的な課題を抱える対象者の自立支援のため，介護保険以外の幅広い制度に関する知識と横断的な取り組みが要求される。
- ●自立支援型の地域ケア会議は，個人と地域の自立を育むものであるが，合わせて地域と地域住民の意識変革が必要である。



大分県の地域ケア会議の概要

大分県では，県高齢者福祉課が主導し，埼玉県和光市の取り組みを参考にして 2012 年度から自立支援型の地域ケア会議を実施している。2012 年度は，まずモデル市として 3 市が取り組み，2013 年度には県内の全 18 市町村中 14 市町で，2014 年度には以前から独自の取り組みを行っている姫島村を除く 17 市町で実施されるようになった。

地域ケア会議には，当初から OT または PT，管理栄養士，歯科衛生士の 4 職種が専門職助言者として出席しており，その後，市町によっては薬剤師，ST，訪問看護師などが加わるようになった。2016 年度からは，医療依存性の高い事例について，医師が参画する地域ケア会議において検討する取り組みも一部の市町で始まっている。

大分県は，専門職助言者の派遣について県高齢者福祉課が各市町村の要望をとりまとめ，それを各職能団体に振り分けて依頼している。なお，1

0917-0359/18/￥400/論文/JCOPY

【新連載】

責任者はつらいよ，でも楽しいよ 1

朝倉 起己
（共和病院 作業療法課，作業療法士）

プレイングマネジャーとして考えること

責任者はつらいの？

「責任をとる，それが私の仕事だ」。これは映画『踊る大捜査線 THE MOVIE2』の中でのセリフです。恥ずかしくて口に出したことはありませんが，心の奥底にはいつも秘めている思いです。

私は2018年4月で，作業療法士免許を取得し20年目を迎えます。養成校を卒業し，地元の精神科病院である共和病院（以下，当院）にずっと勤務しており，いつの間にか当院で勤めているOTの中で勤務年数が一番長くなってしまいました。

当院は民間の精神科病院で内科も標榜しており，院長が内科医，リハ部門の責任者がPTです。精神科病床数は207床，内科病床は80床，1日の外来患者数は150名程度で，精神科デイケアや通所リハ（身体障害のデイケア）も行っています。職員数は265名で，そのうちOTが11名勤務しています。OTは精神障害部門の作業療法課に8名，デイケア課に2名，身体障害部門のリハ課に1名在籍しています。私は作業療法課の責任者を担っています。

責任者の業務として毎月の作業療法出来高（件数）の分析や課員の勤怠管理・能力に応じた行動規準の確認をするとともに，自身も作業療法を患者さんに直接提供しています。業務管理もして現場でのリハもやるといったプレイングマネジャーのような状況です。自身の作業療法の責任を負うとともに，課員の取り組みについても作業療法課に関するすべての責任を負うことになります。まさに冒頭の「責任をとる」ことが仕事になります。その責任から得られるやりがいもあれば，もちろんストレスもあります。以下に，私自身の取り組みを紹介します。

責任者の経験から

「賢いものでも強いものでもない，変化するものが生き残る」。有名なダーウィンの進化論です。責任者として私が常に心がけている言葉です。

私が責任者になったのは就職して10年目，作業療法課からデイケア課へ異動し，そのデイケア課で管理職（責任者）に就きました。前任のデイケア責任者の看護師が役職定年を迎える年齢となり，またデイケア登録のOTが退職することもあって，その2つの空きの枠に私がハマる…といったきっかけでした。もともとデイケアでの地域生活支援や多職種協働には興味をもっており，多職種それぞれの力を結集したらきっと面白いことができる，責任者だったらそれを率先してやれると思ってデイケア課へ意気込んで異動しまし

【新連載】

ADL潜考と日常実践 第1回

トイレ動作の評価と介入

三瀬 和彦（甲府城南病院 リハビリテーション部）

連載にあたって―ここまで追求してこそ“OTのADL介入”！

OTとしてADLへの介入は当然のことであるが，それは「OTが関わるADL」となっているだろうか？「他職種が関わるADL」と同じであってはならない。今，専門職の視点での生活機能アセスメントおよびアプローチが求められており，その中でOTによるADLへの介入は非常に重要であると考える。

2018年度の診療･介護報酬同時改定の中で，特に介護保険分野においてリハ専門職の活用が大きく取り上げられた。訪問介護の生活機能向上連携加算が，訪問リハスタッフだけでなく，加えて，通所リハスタッフ，リハを実施している医療提供施設（病院にあっては，認可病床数が200床未満のものまたは当該病院を中心として半径４キロメートル以内に診療所が存在しないものに限る）のリハ専門職・医師が訪問して行う場合にも評価されることとなった。さらに，リハ専門職・医師が，認知症対応型共同生活介護においても同様に生活機能のアセスメントを行い，通所系サービスや入所・入居系サービスにおいても職員がリハ専門職と共同でアセスメント・個別機能訓練計画を作成することになった。

リハ専門職の介入が必要とされているということは，いうまでもなく，リハ専門職でなくとも可能な「単なる介助方法や体操」の指導を求められているわけではない。個々の対象者の生活に応じた生活が長く維持できたり，改善したり，負担が軽減するなど「変化」を求められているわけである。それでは，実際にわれわれが，その依頼を受けた際に，本当に「変化」を提供できるような実践を，日々の臨床で行えているだろうか？ たとえば，料理が冷めるくらい時間を費やしても食事は「完食」，更衣では疲労を伴っても１人で着替えることができれば「自立」，上肢機能に問題があり，排便後の清拭は温水洗浄便座による洗浄のみでは不快であるのに「排便自立」とADLを評価していないか？ OTは，食事に時間を費やす要因，更衣で疲労する要因，排泄後の清拭動作が不十分となっている要因を知っており，それらをより快適に行える方法を見出すことができる専門職である。それは，各種疾患により呈する機能障害とそれらの要因の関係を踏まえているからこそ，他職種ではできない食事，更衣，排泄のアプローチとなるのである。本連載では，「この視点で介入するのがOT」「ここまで追求できるのがOT」という実践例を通して，改めて，自分たちが見落としがちになっているADLを考えてみたい。

宇田 薫（医療法人おもと会 統括リハビリテーション部）

はじめに（トイレ動作とは）

トイレ動作は日常生活には欠かせず，自立のニードが高い動作のひとつである。その背景には，当然のことながら，自身の性器や排泄物に対する羞恥心や，その部分に支援が必要となった状

OTとして私が大切にしていること

作業によって紡がれたナラティブに寄り添う

玉野総合医療専門学校 作業療法学科
織田 靖史

OTになって10年を超え，臨床から教育へとフィールドを変えた私が「OTとして私が大切にしていること」というコラムの執筆依頼をいただいた。なんだか戸惑いながらもなんとか文章にした。それが下記の本文である。個人的に大事にしているポイントを太字で示してみた。その中でも，大事にしていることは，作業をするということである。ひとは作業をすることで救われる。ひとは作業を通して，命を紡ぎ，自分らしさを構築し，ひととつながり，新しいものを生み出してゆく。そのためには，「今」をあるがままに生きることが重要である。そして，誰もが自分の物語を生きている。その中で，相手を思いやり，認め合うこと，文脈を読み取ることが，より自由で平和な世界へとつながるのではないかと皮膚感覚的に感じ，考えている。

それでは，今まで臨床で教わったことを軸に，日頃の自分を振り返る機会として，テーマについて思い当たるにつながった経験を徒然なるままに綴ってみる。

OT プロローグ

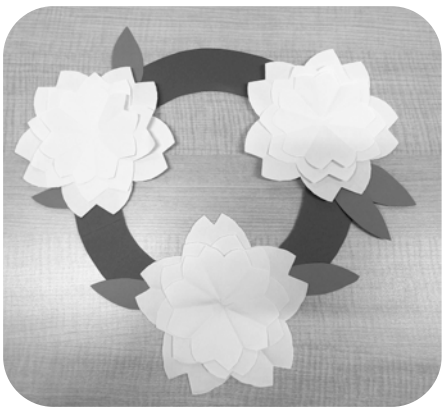
この原稿を書くためにパソコンに向かっていた時のことである。私の**青春**の1ページとなっている映画『アルマゲドン』の主題歌であるエアロスミスの「I Don't Want to Miss a Thing」に誘われて振り返ってみると，某カップラーメンのCMが流れていた。「アオハルかよ。」と映し出された画面をぼんやりと眺めていた私の脳裏に，『君の名は。』が浮かんできた。

『君の名は。』は，2016年に公開されて大ヒットした長編アニメーション映画である。余談だが，恥ずかしくも私は，当初「君の名は。」の名を耳にした際に，ラジオドラマから映像化された『君の名は』のことだとばかり思っていた。どうりで，皆が（特に若者が），なぜそんなに盛り上がるのか

アクティビティの実践講座

第5回

八重桜の紙工作



泰山 紀子
（南千住西部地域包括支援センター，作業療法士）

はじめに

認知症の方とその家族，認知症予防に興味のある方や専門職が集まり，お茶を飲みながら語り合う認知症カフェ（オレンジカフェ）が，現在全国的に広がってきている。気軽に参加できることが特徴でオープンな形態が多く，毎回参加者の人数や好み，集団内の能力差がどのくらいあるかも予想できない。今回，認知症カフェ（オレンジカフェ）の交流イベントとして紙工作を実施した。認知症の方から元気な高齢者まで，適応範囲が広く，カフェの雰囲気が明るく温かくなった紙工作を紹介する。

今回の事例

認知症カフェ（オレンジカフェ）の目的は，引きこもりの防止や居場所づくり，地域との関わりの確保からご家族・専門職の情報交換まで多岐に渡る。認知症と診断された方が，住み慣れた地域で自分らしく過ごすために認知症カフェは存在している。ほっと一息の休憩をする人や，認知症にならないように顔を出す人もいる。参加者個々の目的はいろいろなようだ。

今回，歓談の合間の交流イベントとして，季節感を感じられる八重桜の紙工作を創作活動として実施した。おもに 70 歳代から 90 歳代の高齢者を対象に 30 分で行い，おのおのの作品を完成させ，当日持ち帰った。当初，戸惑うような表情をする方もいたが，完成品を提示したり，花びらを重ね糊づけする流れを繰り返し提示すると，自分の手を動かす人が増えていった。おのおのが作品を作りだすと，隣の人の作品と見比べたり，まねをする人が出てきた。また，地域の花見で有名な場所の話から，最新の開花予想まで参加者同士の話はつきない。

ある軽度認知症の方は，始めはマンツーマンで方法を提示したが，一度理解すると 1 人で黙々と作業を行い始めた。20 分ほど集中して作られ，完

【最終回】

病棟リハの在宅での活かし方

入院中から在宅生活をイメージするために

阿部 あゆみ
（十勝リハビリテーションセンター　訪問リハビリテーションさくら，作業療法士）

はじめに

介護保険制度が2000年の4月から施行され，もうすぐ20年が経とうとしている。開始当初である2000年4月末の介護サービス受給者数は149万人程度だったが，2017年11月分の受給者数は565.5万人程度に増加している（厚生労働省介護保険事業状況報告[1]より）。

これからの高齢化社会に向けて今後も利用者数は増加の一途をたどると同時に，平均寿命の延びに伴い，病気になった後の生活も長期に渡ることが予測される。自宅に退院した後，生活機能を構成している活動や参加をどのように行い，継続していくかがより良い生活を送るうえで重要となってくる。

筆者が，介護保険制度施行前の1999年に訪問リハに従事していた頃は，必要と思われるサービスの提供が不十分であると感じたこともあった。その後，介護保険の下では被保険者のサービスの利用が増え，ケアマネジャーの計画を基に，被保険者を中心に家族を含めた必要な介護サービスを受けることができるようになったと思われる。

しかし退院後の在宅生活に関しては，以前からいわれているような病棟と在宅生活でのADLの格差はいまだに残っている印象がある。もちろん在宅に戻ってから実際の場面での練習にて獲得する動作もあるが，入院中に在宅を想定した練習をすることができれば，在宅での生活へスムーズに移行しやすいのではないかと考える。

本稿では，回復期病棟から自宅へ退院した直後より訪問リハを担当している事例を通して，入院中の在宅を想定した生活場面の練習はどのようなことができたのかを考えてみたい。

事例紹介

60歳代，女性。X年に庭作業中にめまいを訴え救急車でA病院に搬入，脳幹出血と診断され入院となった。1カ月後，B病院の回復期リハ病棟へ転院し，発症から6カ月後に自宅退院となり，翌週から週2回の訪問リハが開始となる。

退院時の身体機能は左右とも随意性良好だが，左上下肢は感覚障害と近位部の不安定性から肘や

レポート

組織マネジメントは“作業療法そのもの”

セミナー名：作業療法士のための組織マネジメント
セミナー 其の一/東京編
会　場：東京文具共和会館
日　時：2018年2月10日

細川 寛将●（株）クリエイターズ，作業療法士

セミナーの概要

去る2018年2月10日，東京文具共和会館にて「作業療法士のための組織マネジメントセミナー其の一/東京編」が開催された。本セミナーは，一般社団法人日本作業療法士協会の元副会長である土井勝幸氏，谷川真澄氏，太田睦美氏の3名が発起人となり講演をする「OTで部下をもつマネジャー・リーダー」に向けたセミナーである。「生活行為向上マネジメント」など普段の臨床で“マネジメント”という言葉に触れる機会は多いものの，「組織マネジメント」について学ぶ機会はほとんどない状況で開催されたセミナーだけに，全国から70名以上のOTが参加した。その内容を，タイムテーブルを追ってご紹介する。

1.「OTが管理職をすることの意味」―土井勝幸氏

最初のプログラムは，キャリア初期から数多くの失敗を繰り返しながら，愚直に自らのフィールドで組織マネジメントに取り組んできた土井氏の講演。臨床で目の前の患者と対峙することだけでは，「目指すべき作業療法」を体現できないと感じ，組織マネジャーとしての道を決意。何度も行政に跳ね返されながら，日本で最初の医師以外の介護老人保健施設管理者になった話は印象的であった。こうしたマネジメントは，実は作業療法の根幹に通じるものがあるため，本セミナーを介して「普遍的な仕組みに落とし込むこと」が土井氏の目標と述べた。

2.「目標指向型組織マネジメントの実践」―谷川真澄氏

2人目の登壇者は，福井県でデイサービスなどの介護保険事業所などを複数経営する谷川氏の講演。谷川氏は「生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会」の委員長でもあることから，作業療法の実践とマネジメントの関連，それに加えて起業家としてPDCAサイクル（plan-do-check-act cycle）やバランスト・スコアカードを用いた組織の目標の立て方や共有の方法，スタッフ個々に求める技能を，自身の苦労話や成功事例を交えながら述べた。谷川氏の，「OTはそもそも何にマネジメントされているのか？」という問いかけは，国がどのような意図をもってOTに期待をしているのかを今一度整理するきっかけとなった。

3.「組織マネジメントの基本」―太田睦美氏

最後の登壇者は，法人の介護福祉本部にて介護・福祉領域における事業を企画・運営・統括している太田睦美氏の講演。太田氏が約40年のキャリアで構築した経験や理論を踏まえたマネジメントや，リーダーといった用語の整理，PDCAサイクルの説明，そしてリスクマネジメントなどのオペレーション関係からリーダーとしての姿勢・あり方まで多岐に渡って述べた。また，太田氏も土井・谷川両氏と同様に，「個人や小集団を対象に直接的に介入する作業療法も，複数の個人が共通の目的の下に集まって意図的・計画的に事業展開する組織へのマネジメントも同じ」と述べ，作業療法とマネジメントの類似性を強調した。

印象に残った事柄

受講して印象に残ったのは，3名の講師が共通して「作業療法はマネジメントである」と述べていた点である。土井氏はこの点に関して，自身が一貫してOTとして大切にしてきたものが，「人が